

景気動向調査 報告書

2024 年 10－12 月期実績
館山商工会議所

【目 次】

I 調査方法と回答企業の概要	1
II 製造業の景況	1
III 建設業の景況	6
IV 小売業の景況	8
V 卸売業の景況	10
VI 飲食業の景況	12
VII サービス業の景況	14
VIII 観光業の景況	16
まとめ	18

I 調査方法と回答企業の概要

1 調査方法

この景気動向調査は館山市の企業を対象として、2025 年 1 月に実施したものである。調査方法は FAX による無記名の調査票(アンケート)回収方式である。

今回の調査票発送数、回収数、回収率は以下の通りである。前回と比べ、回答率は向上した。

<調査回収状況>

業種	発送数（件）	回答数（件）	回答率	(参考)前回回答率
工業	16	10	62.5%	43.8%
製造業	7	7	100.0%	71.4%
建設業	9	3	33.3%	22.2%
商業	44	31	70.5%	56.8%
小売業	20	16	80.0%	65.0%
卸売業	4	4	100.0%	100.0%
飲食業	4	2	50.0%	25.0%
サービス業	12	8	66.7%	41.7%
観光業	4	1	25.0%	50.0%
合計	60	41	68.3%	53.3%

2 DI の意味【設問 1】

景況を表す DI とはデフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、良くなったとする企業数(A)から、悪くなったとする企業数(B)を差し引いた数の全体に対する比率である。

工業関連企業（製造業・建設業）

商業関連企業（小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業）

	A		B
売上高	①増えた	②横ばい	③減った
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った
引き合い	①増えた	②横ばい	③下がった
受注・製品単価	①上がった	②変わらない	③減った
在庫(製品)	①過剰になった	②変わらない	③不足になった
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した
設備投資	①増やした	②変わらない	③縮小した
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる

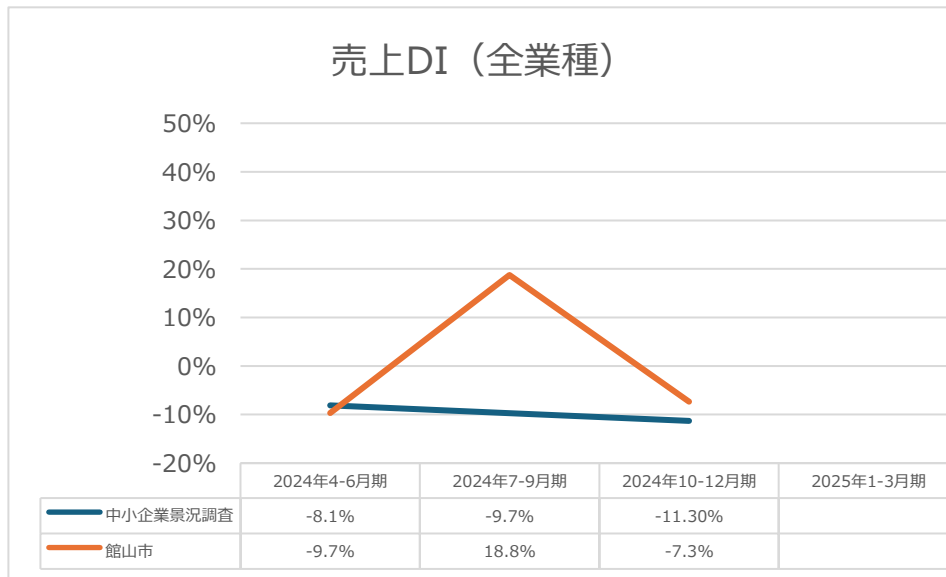
	A		B
売上高	①増えた	②横ばい	③減った
採算(経常利益)	①増えた	②横ばい	③減った
客数	①増えた	②横ばい	③減った
客単価	①増えた	②横ばい	③減った
経費	①減った	②横ばい	③増えた
資金繰り	①楽になった	②変わらない	③苦しくなった
雇用者数	①増やした	②変わらない	③縮小した
金融機関の融資状況	①容易になった	②変わらない	③困難になった
今後の見通し(売上)	①良くなる	②変わらない	③悪くなる

Ⅱ 調査結果の概要について

1 売上高の状況

(1)全国および千葉県との比較

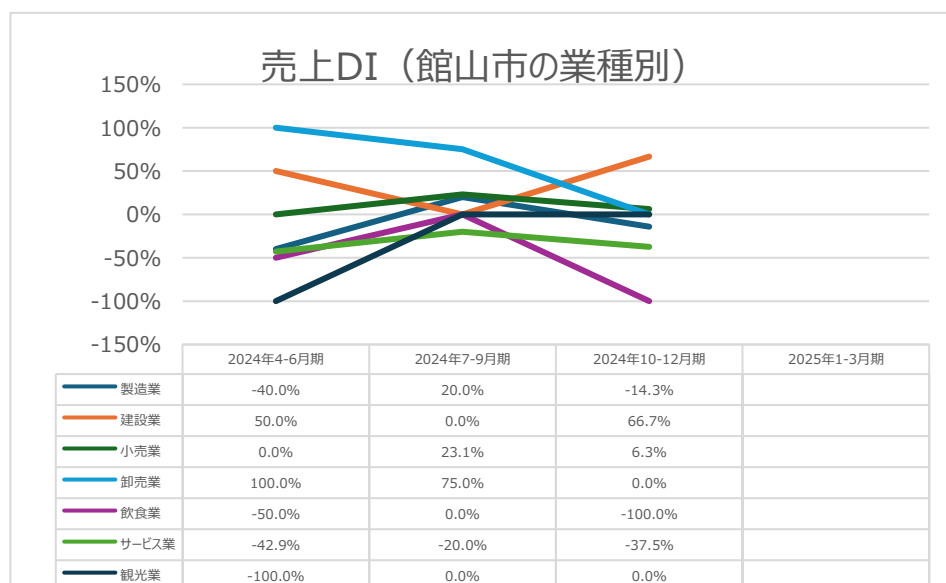
館山市の全業種の売上 DI は前回調査より 26.1 ポイント下降して▲7.3%となった。中小企業景況調査（中小機構・全国調査）（▲11.3%）と比べると 4.0 ポイント高い。



(2)業種別

館山市の業種別の売上 DI は、工業関連企業においては、建設業が 66.7 ポイントの上昇、製造業が 34.3 ポイントの下降となった。

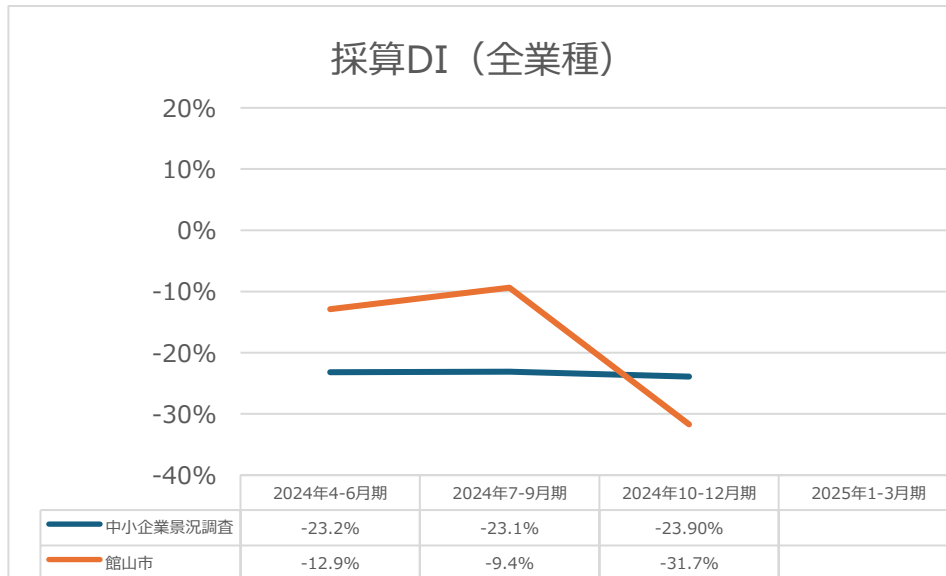
商業関連企業においては、観光業をのぞく業種で下降となった。特に、飲食業は 100.0 ポイント、卸売業は 75.0 ポイントの下降となっている。



2 採算の状況

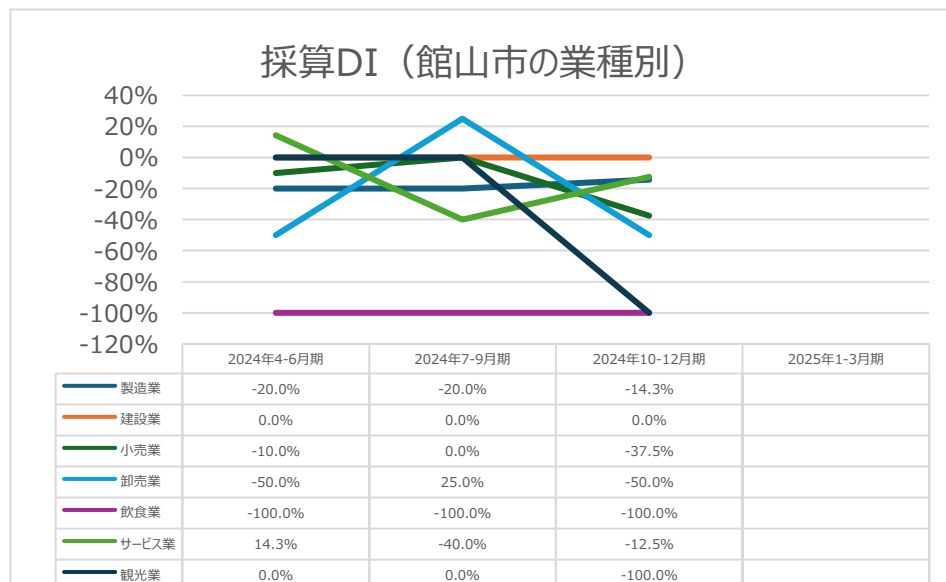
(1)全国および千葉県との比較

館山市の全業種の採算 DI は前回調査より 22.3 ポイント下降して△31.7%となった。小企業景況調査（中小機構・全国調査）（△23.9%）と比べると 7.8 ポイント低くなっている。



(2)業種別

館山市の業種別の採算 DI は、工業関連企業においては、製造業は 5.7 ポイント高くなり、建設業は横ばいであった。商業関連企業においては、サービス業で上昇となった。特に、他の業種は前回調査時と比較すると低くなっている。

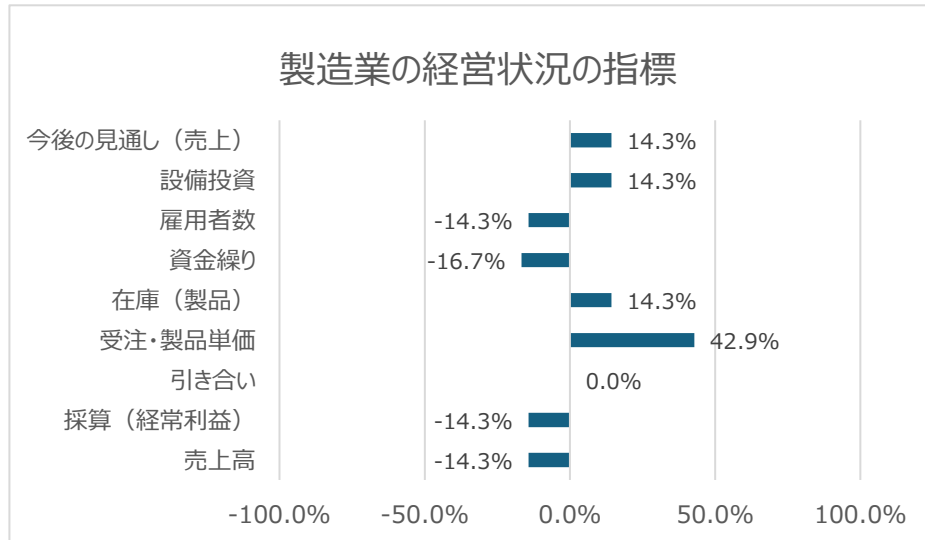


Ⅱ 製造業の景況

1 製造業の経営状況の指標

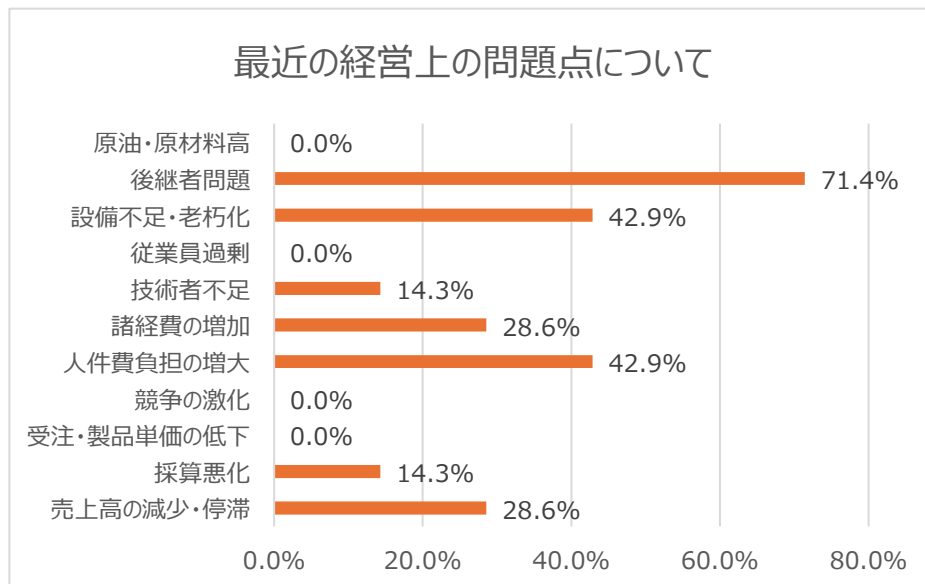
各種 DI をみると、「売上高」の DI は、今回調査は▲14.3%となった。「受注・製品単価」の DI は、今回は 42.9%となっている。昨今の原材料高や原油高に起因するエネルギーコストの上昇が価格に転嫁されているものと推察できる。

また、「設備投資」「在庫」の DI はともに、14.3%となっている。今後の見通し（売上）は 14.3%となっている。



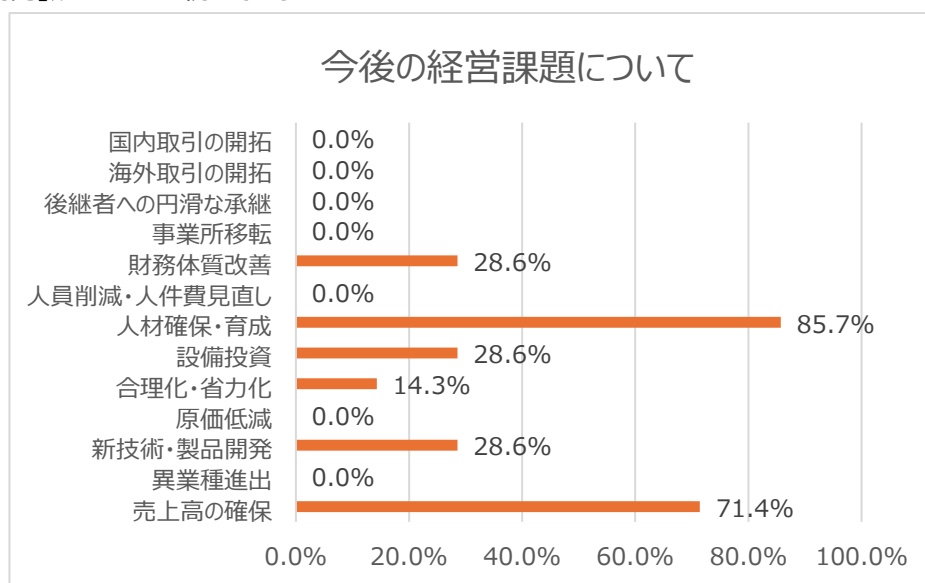
2 製造業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「後継者問題」が 71.4%と最も高く、「設備投資・老朽化」、「人件費負担の増大」が 42.9%と続いている。



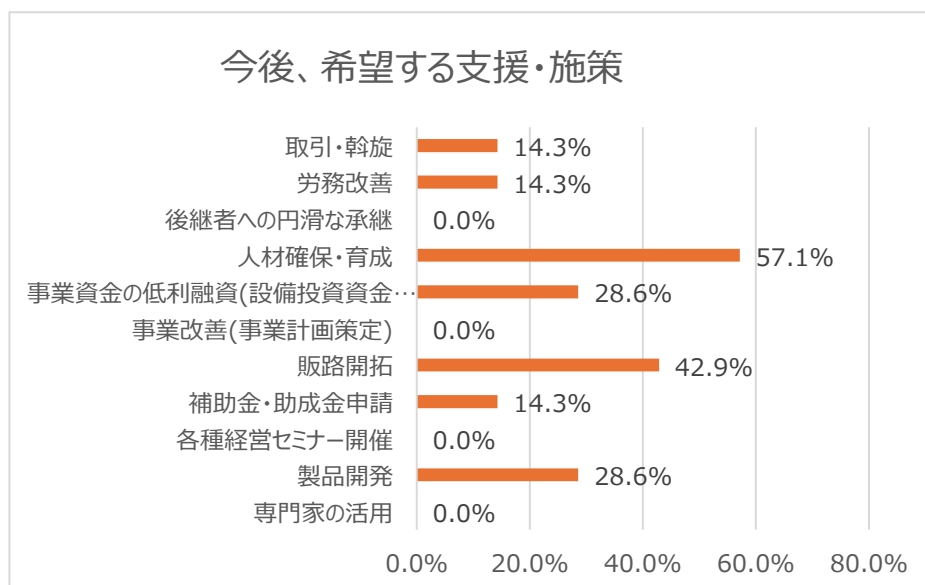
3 今後の製造業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「人材確保・育成」が 85.7%と最も高く、「売上高の確保」が 71.4%、「財務体質改善」、「設備投資」、「新技術・製品開発」が 28.6%と続いている。



4 今、製造業が必要としている支援・施策(いくつでも)

全体では、「人材確保・育成」が 57.1%と最も高く、「販路開拓」が 42.9%、「事業資金の低金利融資」、「製品開発」が 28.6%と続いている。

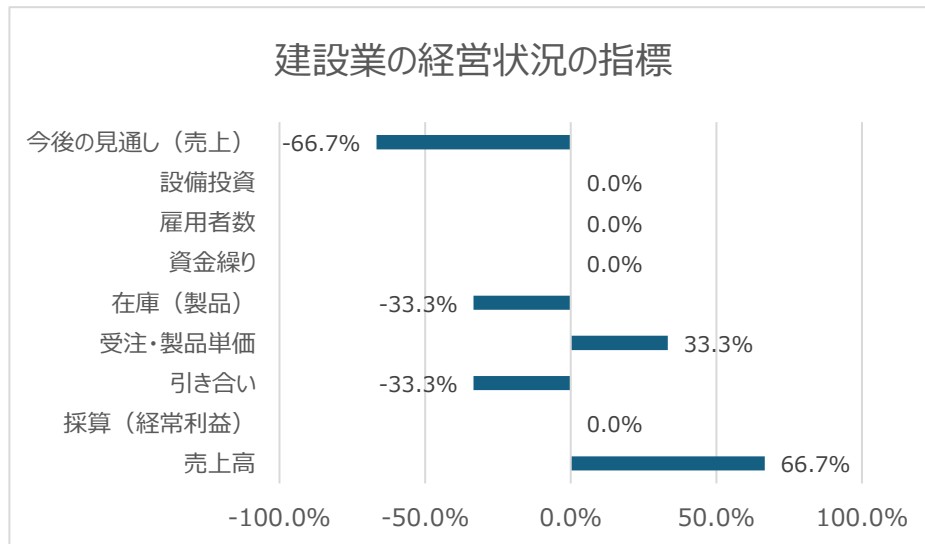


Ⅲ 建設業の景況

1 建設業の経営状況の指標

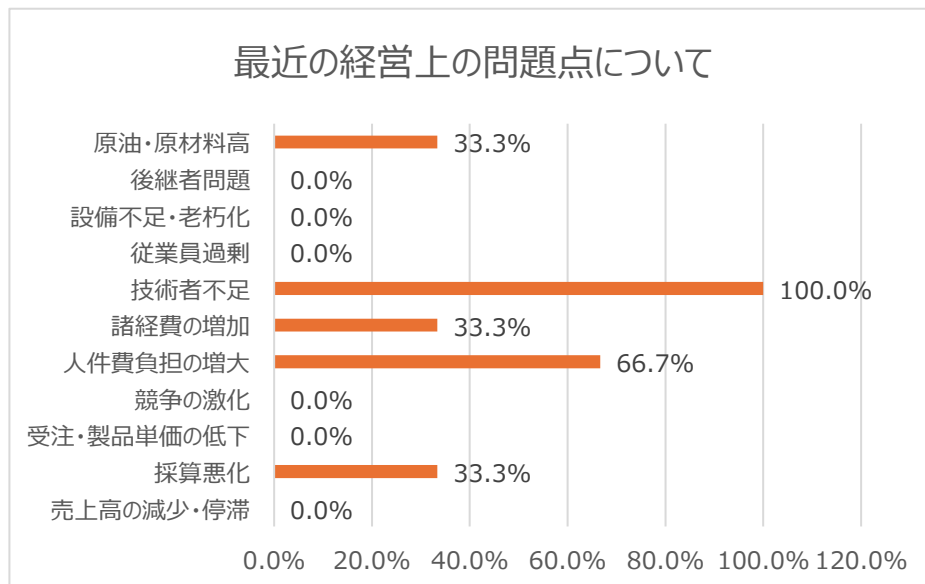
各種 DI をみると、「売上高」の DI は、今回調査は 66.7%となった。「受注・製品単価」の DI は、今回は 33.3%となっている。昨今の資材価格の高騰が、受注・製品単価を押し上げているため、売上高の増加につながっていると考えられる。

また、「在庫（製品）」、「引き合い」の DI は、今回は▲33.3%となった。今後の見通し（売上）は、△66.7%となっている。



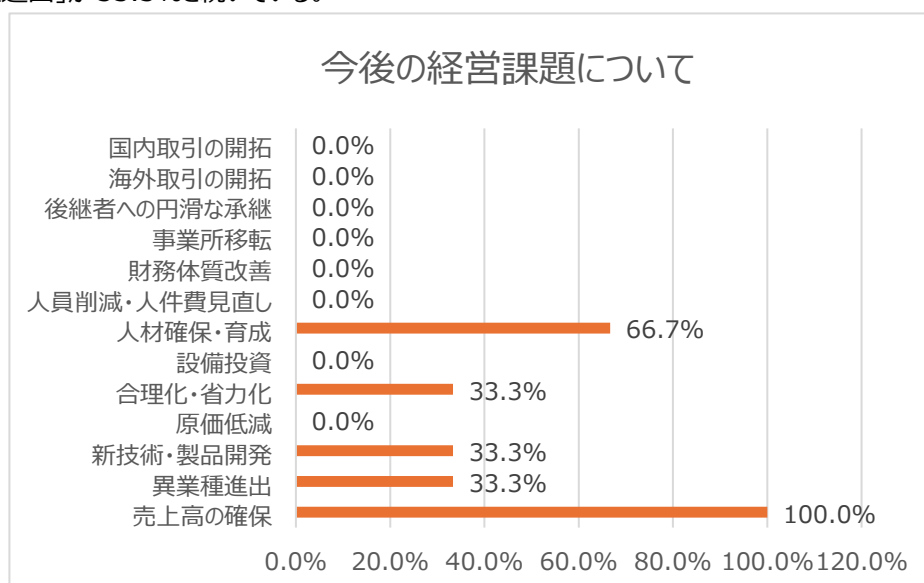
2 建設業の最近の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「技術者不足」が 100.0%と最も高く、「人件費負担の増大」が 66.7%、「原油・原材料高」、「諸経費の増加」、「採算悪化」、が 33.3%と続いている。



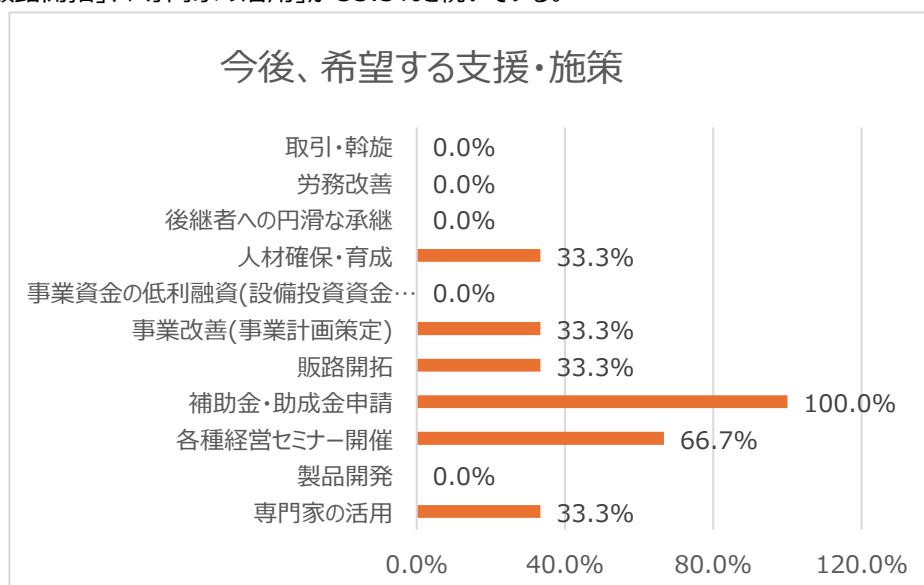
3 今後の建設業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「売上高の確保」が 100.0%と最も高く、「人材確保・育成」が 66.7%、「合理化・省力化」、「新技術・製品開発」、「異業種進出」が 33.3%と続いている。



4 今、建設業が必要としている支援・施策(いくつでも)

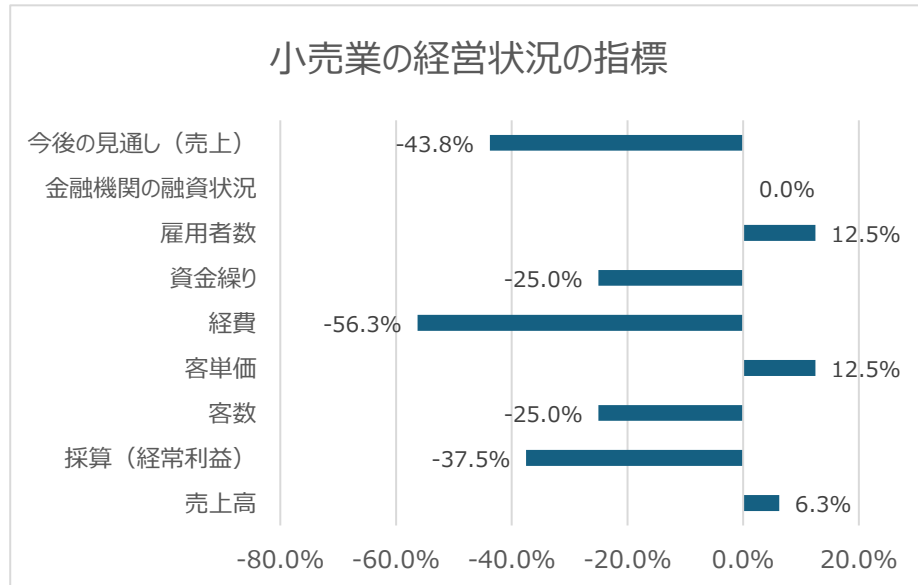
全体では、「補助金・助成金申請」が 100.0%と最も高く、「各種経営セミナー開催」が 66.7%、「人材確保・育成」、「事業改善」、「販路開拓」、「専門家の活用」が 33.3%と続いている。



Ⅳ 小売業の景況

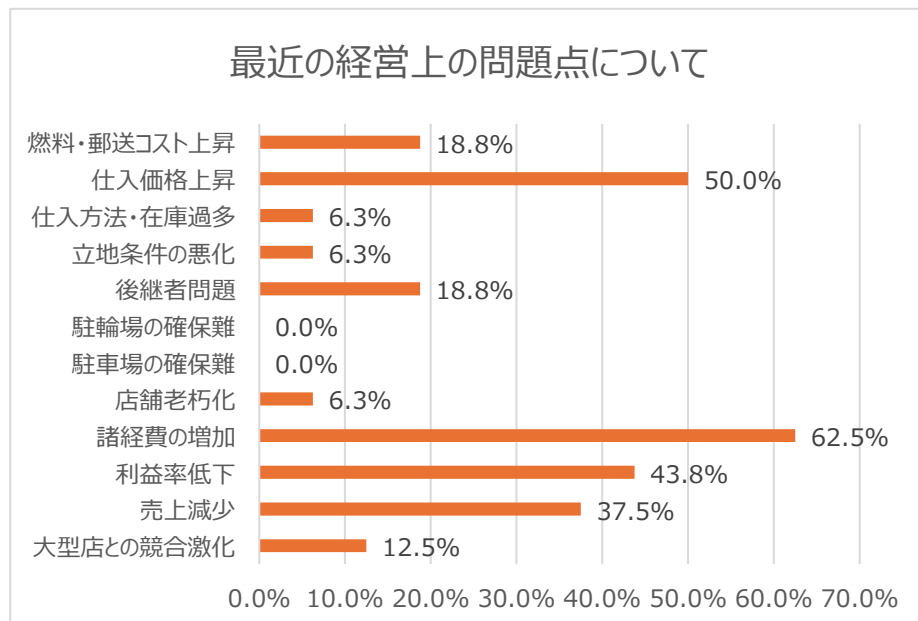
1 小売業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「客数」の DI は、 $\Delta 25.0\%$ 、「客単価」の DI が 12.5% になっており、これらが要因となって「売上高」の DI は、今回調査は 6.3% となった。「経費」の DI は、今回は $\Delta 56.3\%$ と、昨今の物価の上昇が影響しているものと推察できる。今後の見通しは、 $\Delta 43.8\%$ となっている。



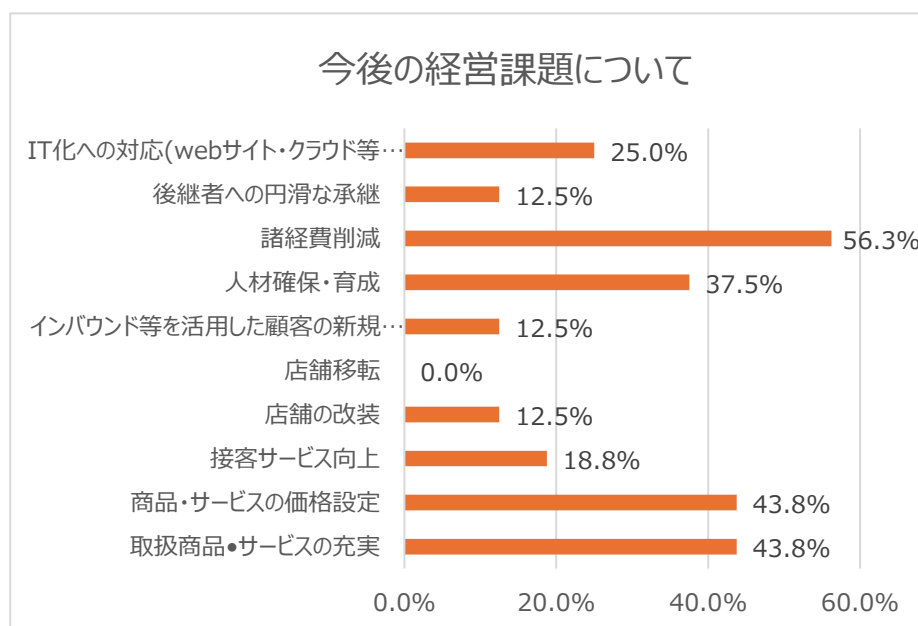
2 最近の小売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「諸経費の増加」が 62.5% と最も高く、「仕入価格上昇」が 50.0% 、「利益率低下」が 43.8% と続いている。



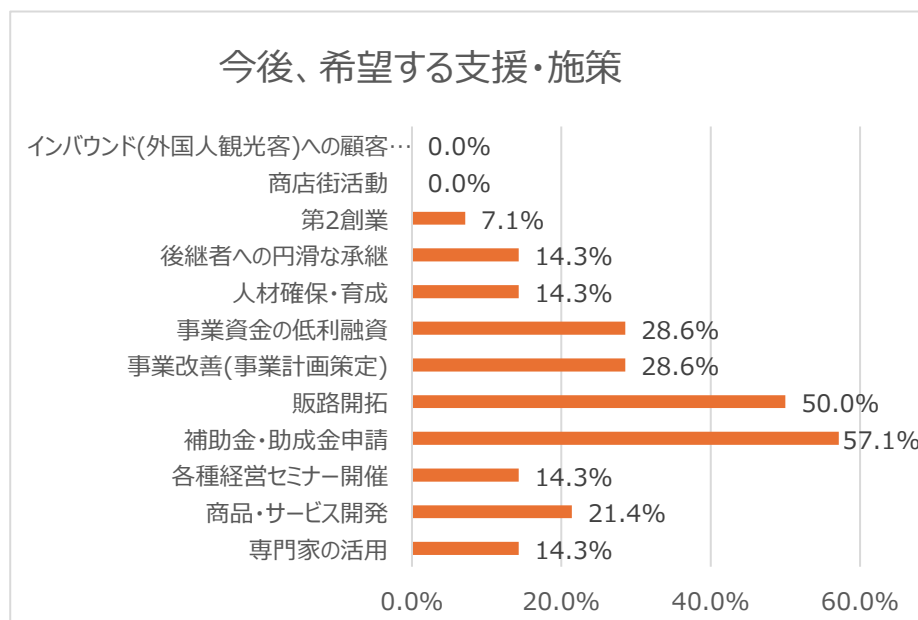
3 今後の小売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では、「諸経費削減」が56.3%と最も高く、「商品・サービスの価格設定」、「取扱商品・サービスの充実」が43.8%と続いている。



4 今、小売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

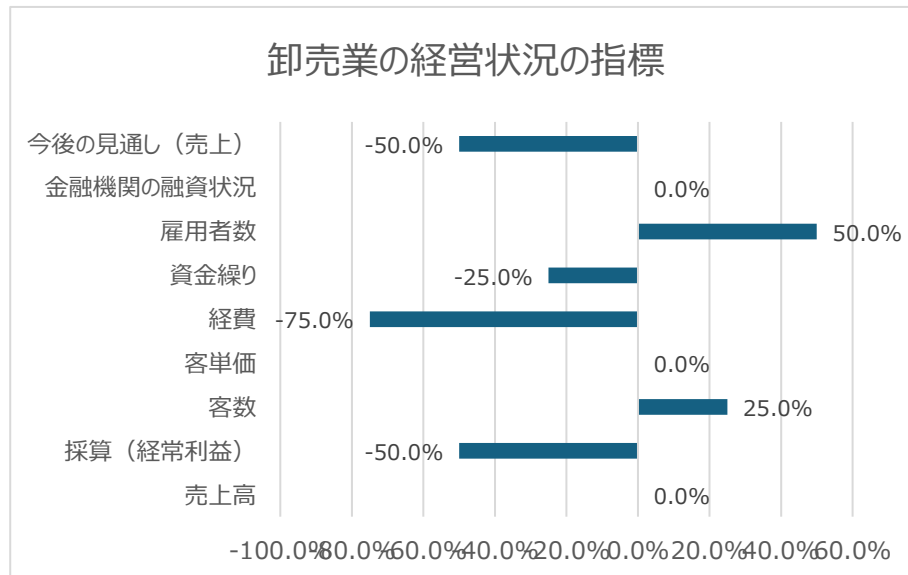
全体では、「補助金・助成金申請」が57.1%と最も高く、「販路開拓」が50.0%、「事業資金の低利融資」、「事業改善」が28.6%と続いている。



V 卸売業の景況

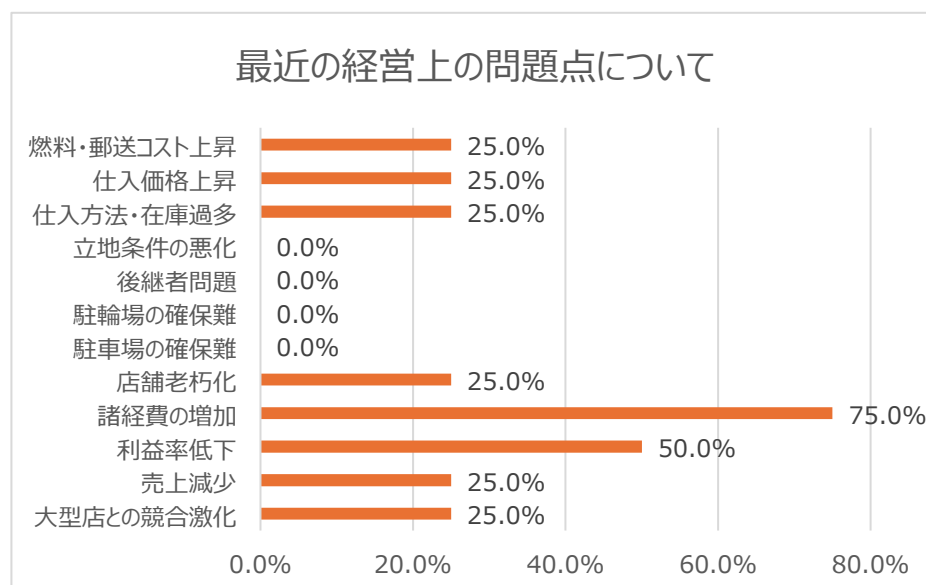
1 卸売業の経営状況の指標

各種DIをみると、「売上高」のDIは、今回調査は0.0%となった。「客数」のDIが25.0%となっているにも関わらず、「経費」のDIが△75.0%となっているため、昨今の原材料の高騰による仕入価格の上昇により、「採算」のDIが△50.0%になったと推察できる。また、雇用者数は50.0%となっている。今後の見通し（売上）は、△50.0%となっている。



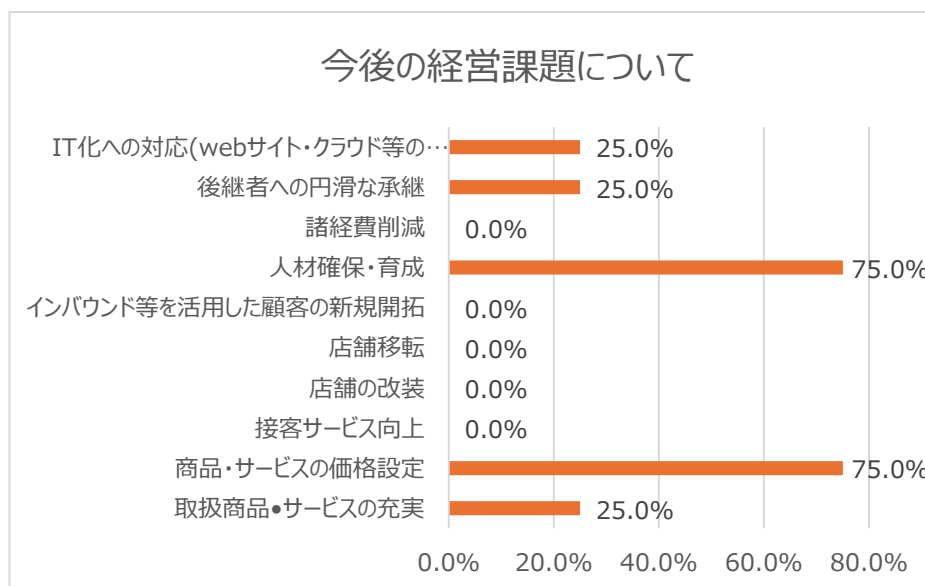
2 最近の卸売業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3つまで)

全体では、「諸経費の増加」が75.0%と最も高く、「利益率低下」が50.0%、「燃料・郵送コスト上昇」、「仕入価格上昇」、「仕入方法・在庫過多」、「店舗老朽化」、「利益率低下」、「売上減少」、「大型店との競合激化」が25.0%と続いている。



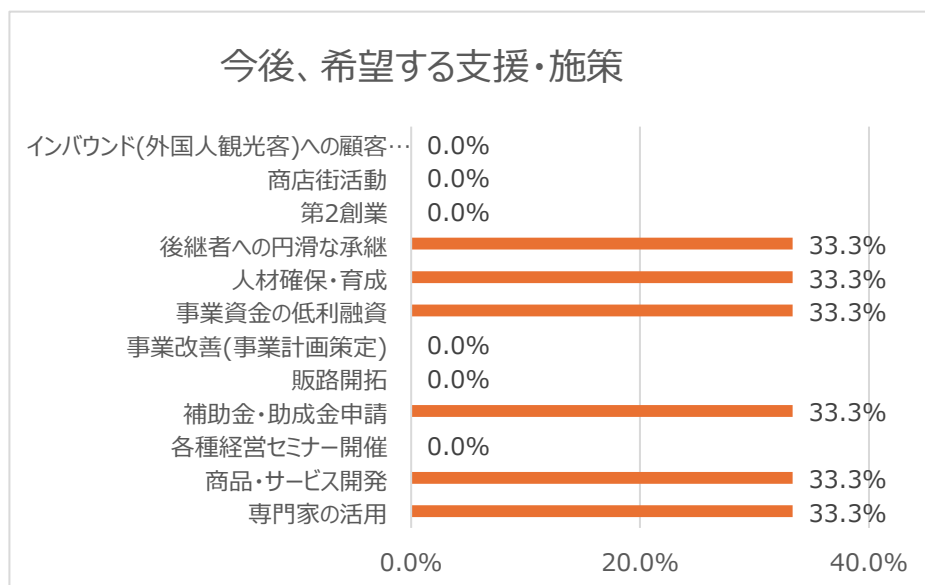
3 今後の卸売業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「人材確保・育成」、「商品・サービスの価格設定」が 75.0%と最も高く、「IT 化への対応」、「後継者への円滑な承継」、「取扱商品・サービスの充実」が 25.0%と続いている。



4 今、卸売業が必要としている支援・施策(いくつでも)

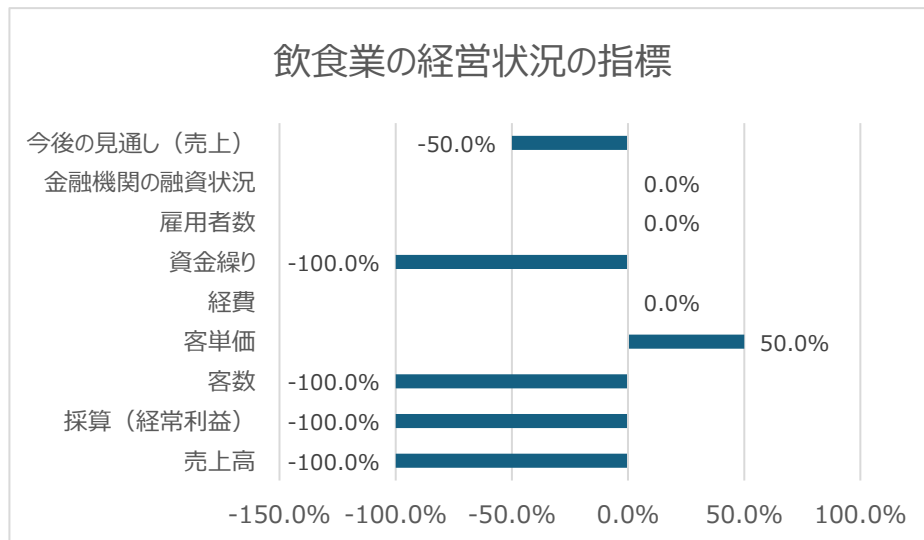
全体では、「後継者への円滑な承継」、「人材確保・育成」、「事業資金の低利融資」、「補助金・助成金申請」、「商品・サービス開発」、「専門家の活用」が 33.3%となっている。



VI 飲食業の景況

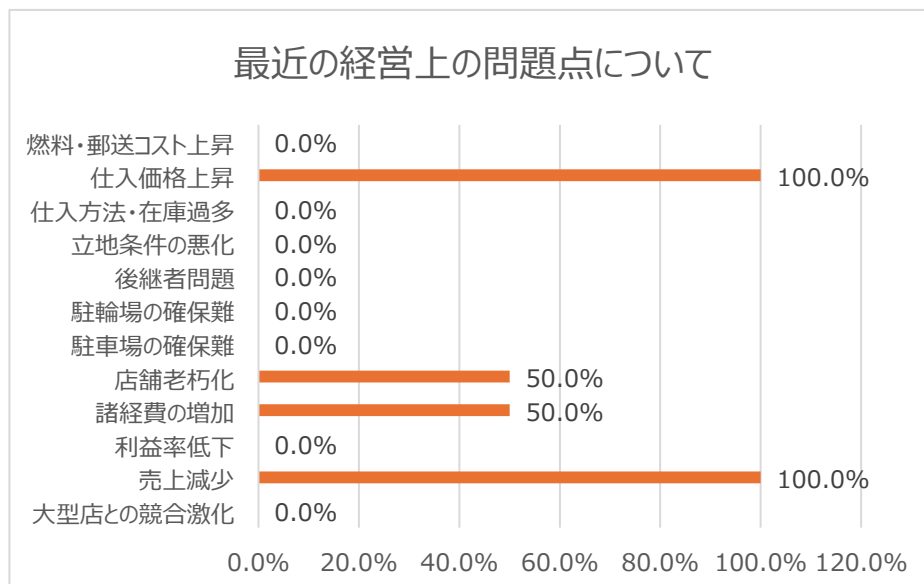
1 飲食業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「売上高」の DI は、今回調査は△100.0%となった。また、「客数」の DI が△100.0%となっている。「客単価」の DI が 50.0%となっているが、「客数」が影響をして、売上高、採算ともに悪化していると推察できる。今後の見通し（売上）は、△50.0%となっている。



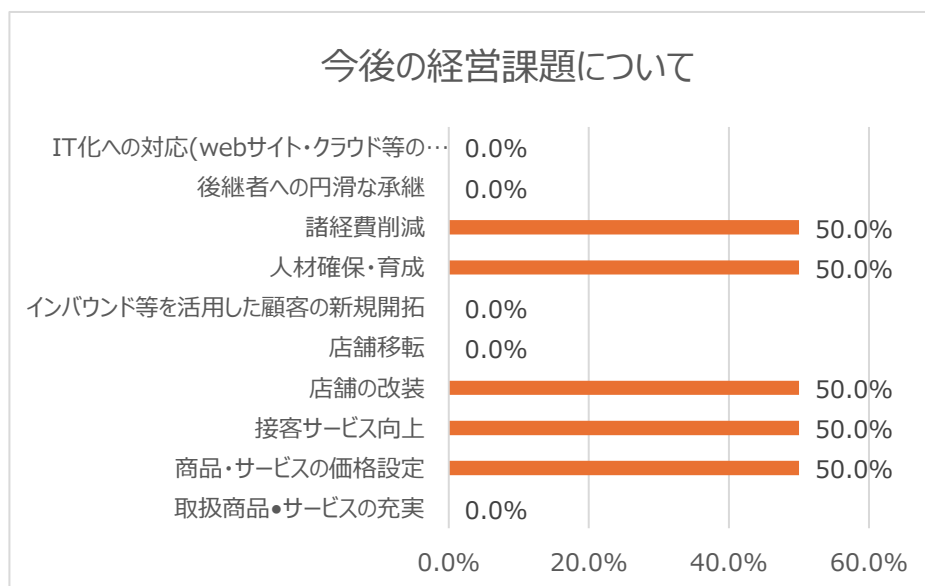
2 最近の飲食業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「仕入価格の上昇」、「売上減少」が 100.0%と最も高なっており、「店舗老朽化」、「諸経費の増加」が 50.0%と続いている。



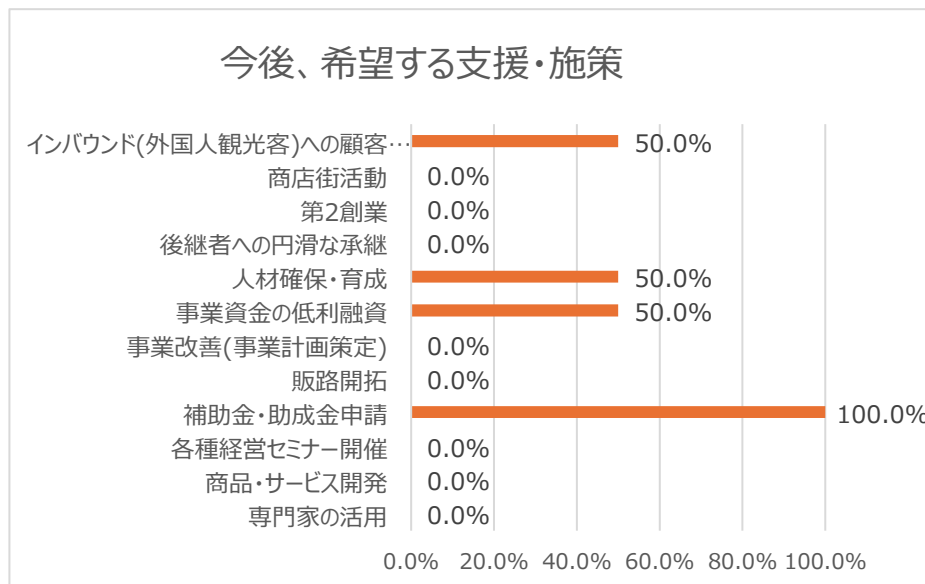
3 今後の飲食業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「諸経費削減」、「人材確保・育成」、「店舗の改装」、「接客サービス向上」、「商品・サービスの価格設定」、が 50.0%となっている。



4 今、飲食業が必要としている支援・施策(いくつでも)

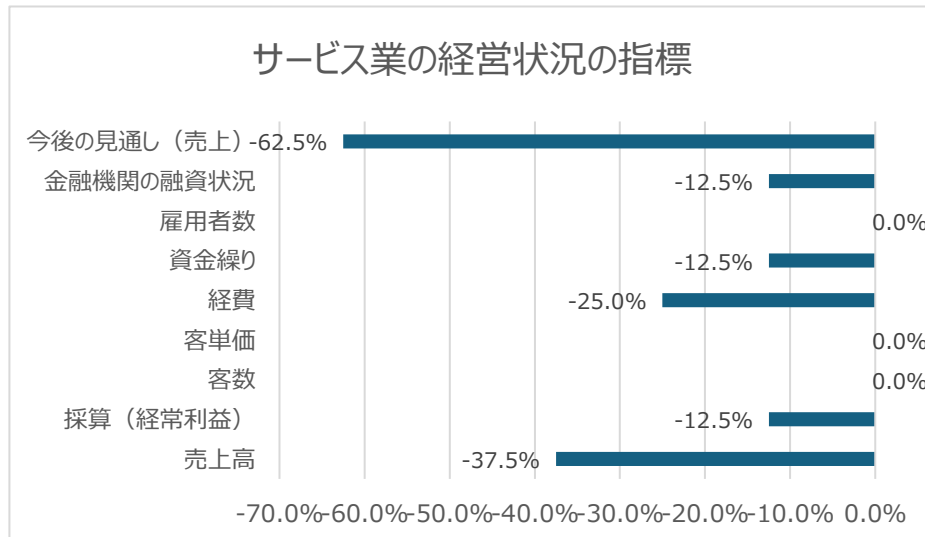
全体では、「補助金・助成金申請」が 100.0%と最も高くなっており、「インバウンドへの接客」、「人材確保・育成」、「事業資金の低利融資」が 50.0%と続いている。



VII サービス業の景況

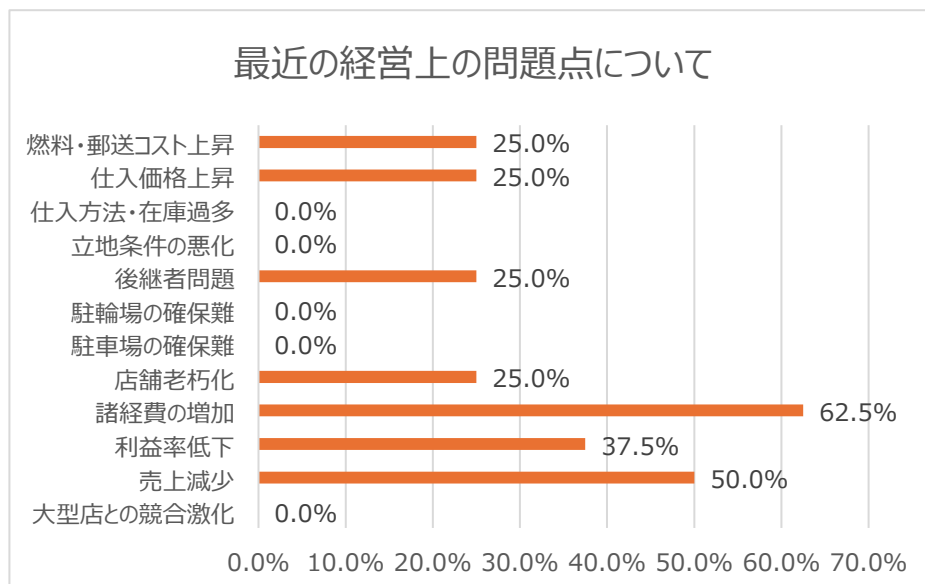
1 サービス業の経営状況の指標

各種 DI をみると、「売上高」の DI は、今回調査は△37.5%となった。「経費」の DI は、今回は△25.0%と、昨今の物価の上昇が影響しているものと推察できる。今後の見通し（売上）は、△62.5%となっている。



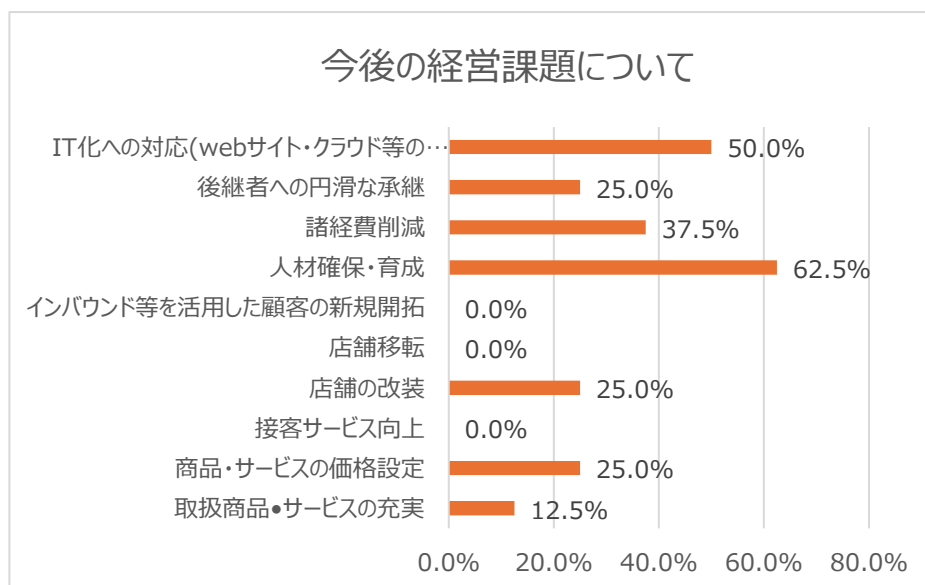
2 最近のサービス業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「諸経費の増加」が 62.5%と最も高く、「売上減少」が 50.0%、「利益率低下」が 37.5%と続いている。



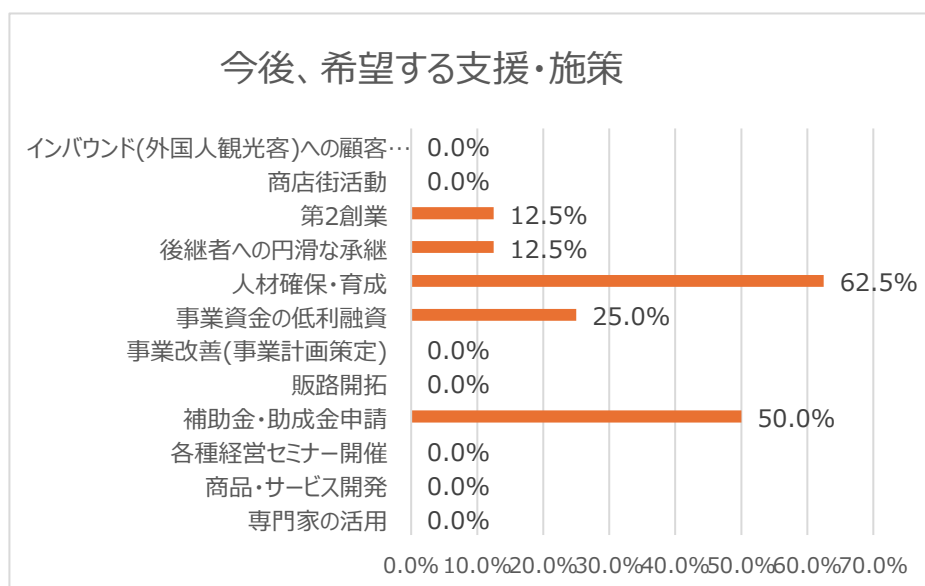
3 今後のサービス業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「人材確保・育成」が 62.5%と最も高く、「IT 化への対応」が 50.0%、「諸経費削減」が 37.5%と続いている。



4 今、サービス業が必要としている支援・施策(いくつでも)

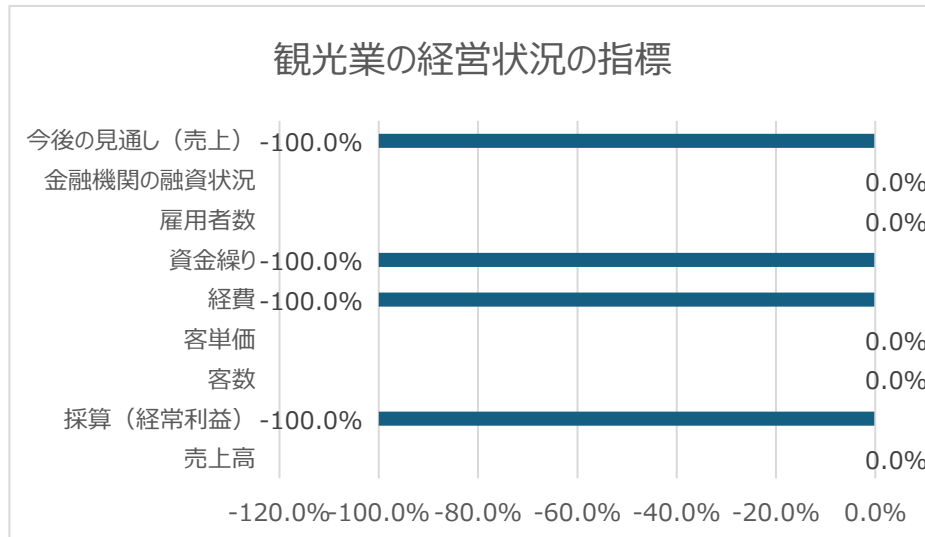
全体では、「人材確保・育成」が 62.5%と最も高く、「補助金・助成金申請」が 50.0%、「事業資金の低利融資」が 25.0%と続いている。



VIII 観光業の景況

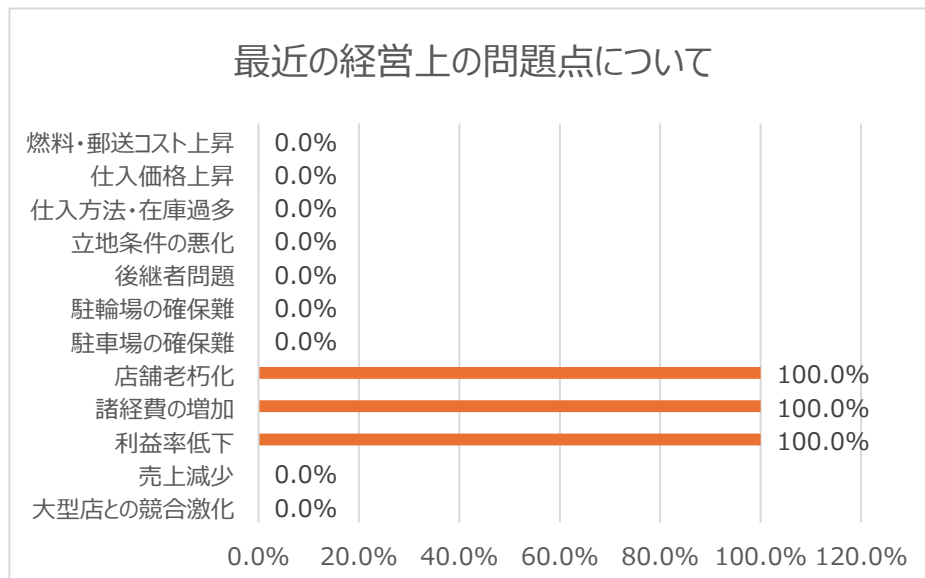
1 観光業の経営状況の指標

各種 DI をみると、売上高」の DI は、今回調査は 0.0%となった。同様に、「客数」と「客単価」の DI も 0.0%となっている。また、「経費」の DI は、今回は△100.0%と、昨今の物価の上昇が影響しているものと推察できる。今後の見通し（売上）は、△100.0%となっている。



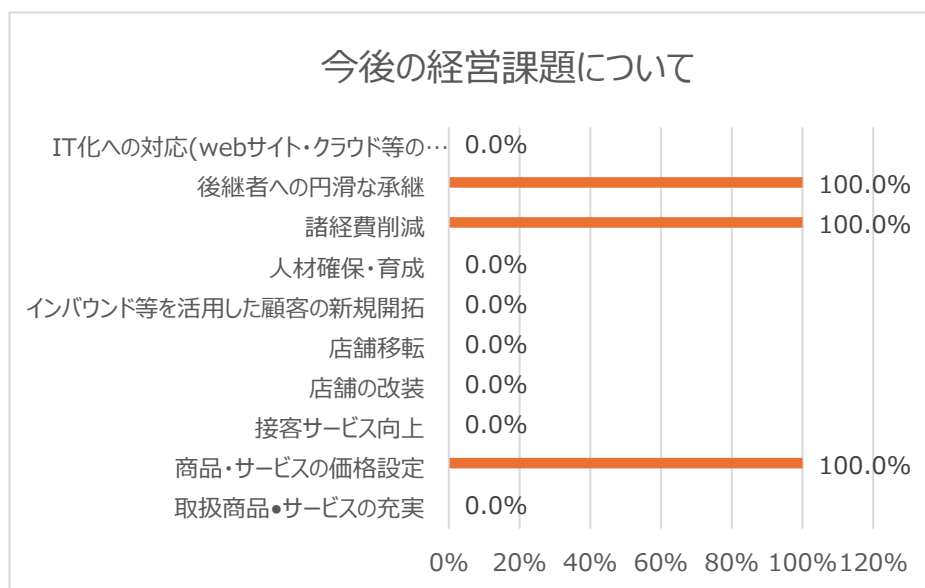
2 最近の観光業の経営上の問題点について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「店舗老朽化」、「諸経費の増加」、「利益率低下」が 100.0%と高くなっている。



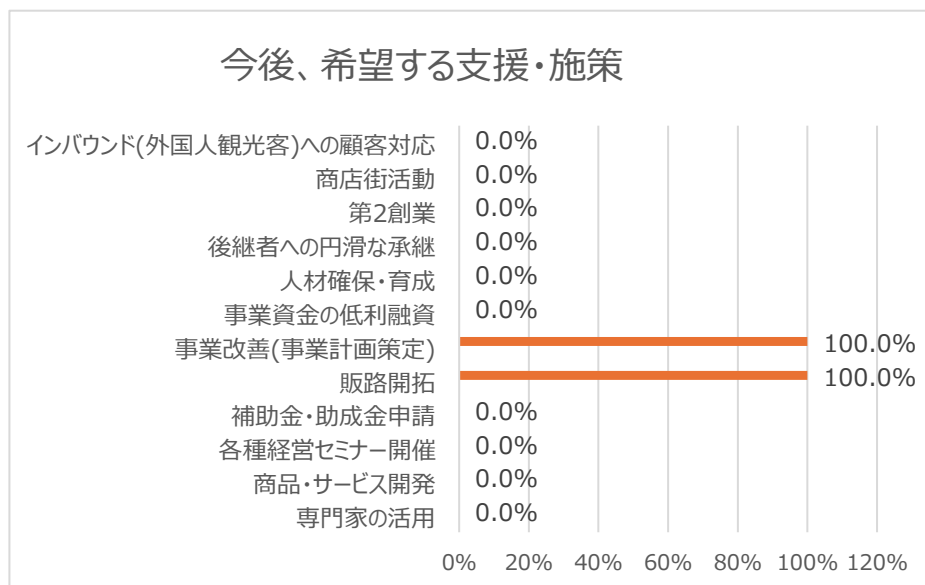
3 今後の観光業の経営課題について、影響度合いが大きいと思われるもの(3 つまで)

全体では、「後継者への円滑な承継」、「諸経費削減」、「商品・サービスの価格設定」が 100.0%と高くなっている。



4 今、観光業が必要としている支援・施策(いくつでも)

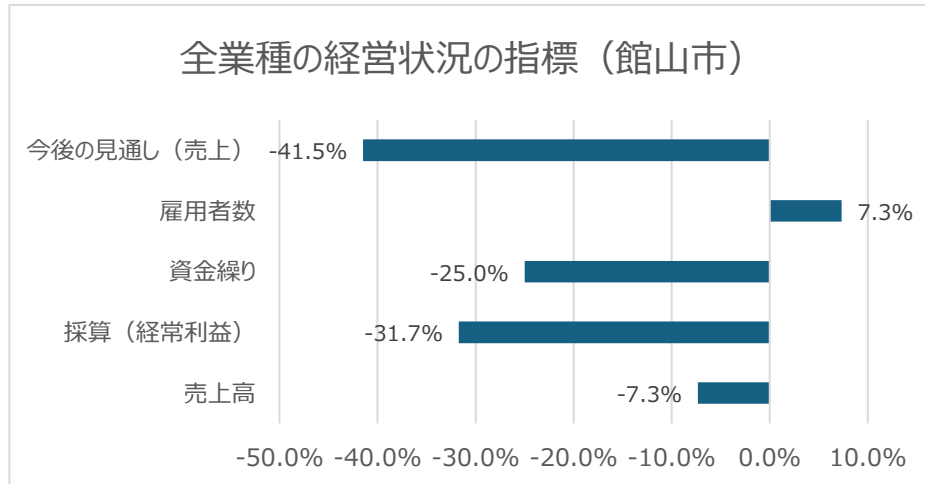
全体では、「事業改善」、「販路開拓」が 100.0%と高くなっている。



まとめ

1 景気動向の概要

館山市の全業種の景気動向をみると、売上高 DI は△7.3%、採算（経常利益）DI は△31.7%となっており、今後の見通し（売上）DI は△41.5%となっている。



業種別にみると、「製造業」、「建設業」で売上高 DI がプラス、「小売業」、「卸売業」、「飲食業」、「サービス業」、「観光業」でマイナスとなっている。採算 DI は「製造業」、「サービス業」がプラス、「建設業」、「小売業」、「卸売業」、「飲食業」、「観光業」でマイナスとなっている。

2 最近の経営上の問題点

工業関連企業（製造業・建設業）の経営上の問題点をみると、「後継者問題」、「人件費負担の増大」の割合が高く、5 割超が問題点として挙げている。商業関連部門（小売業・卸売業・飲食業・サービス業・観光業）の経営上の問題点をみると、「諸経費の増加」が最も高く、6 割超が問題点として挙げている。

3 今後の経営課題

工業関連企業の経営課題をみると、製造業は「人材確保・育成」が 8 割超、建設業は「売上高の確保」が 10 割と最も高く、課題が異なっている。

商業関連企業の経営課題をみると、小売業・観光業は「諸経費削減」、卸売業・飲食業・サービス業は「人材確保・育成」がそれぞれ最も高く、業種ごとに重要課題が異なっていることがわかる。

本市の人口は年々減少しており、高齢化率は急上昇している。人口減少及び高齢化は、深刻な人手不足を引き起こし、各産業において人材の確保や生産性の向上が共通の課題となっている。また、商業関連企業においては、「諸経費削減」の比率が高い水準にあり、コスト削減を試みながら値上げを行い、収益改善を進めることが重要であり、「価格転嫁」や「職員採用」をテーマとしたセミナーを開催するなどの支援を行うことが必要であろうと考えられる。

4 必要としている支援・施策

工業関連企業の必要としている支援・施策をみると、製造業で「人材確保・育成」、建設業で「補助金・助成金申請」がそれぞれ最も高くなっている。

商業関連企業の必要としている支援・施策では、小売業・卸売業・飲食業で「補助金・助成金申請」、サービス業で「人材確保・育成」、「補助金・助成金申請」、観光業で「事業改善」、「販路開拓」が最も高くなっている。